

事業名:	アディクション等を対象とした緊急支援事業
資金分配団体:	プラスソーシャルインベストメント株式会社
実行団体数:	5団体
実施時期:	2021年4月～2022年3月
事業対象地域:	近畿・四国エリア
事業対象者:	アルコール・ギャンブル・薬物等のアディクション（依存症）及び精神などに障がいのある方

進捗報告/事後評価に向けた評価計画

I. 実施状況の分析

リスク要因の把握と対処：事業実施上想定されるリスク要因 (組織外、組織内)	状況の把握方法	想定する対応方法
①コロナ感染・拡大による事業の中断・中止のリスク ②助成終了後に事業継続が困難になるリスク ③法令およびコンプライアンス違反の発生するリスク	①事業期間中の定期的な面談により把握する。 ②コロナ長期化に伴い実行団体の経営や資金繰りが悪化することがないように、月次モニタリングの実施。 ③新規事業を短期で行うことから、法令違反等がおきないように、当社コンプライアンス部および顧問弁護士（2名）が随時相談できる体制を提供	①実行団体における感染防止、対策のためのガイドライン、感染が発覚した際の対応マニュアルの提供およびサポート体制の準備（当社管理部） ②長期化を見据えた資金計画の策定を支援する（連携団体および伴走支援担当） ③当社コンプライアンス部および顧問弁護士（2名）が随時相談体制による対応

II. 見直し後*の事業実施で達成される状態（アウトプット） 及び アウトプット指標（実施・到達状況の目安とする指標）/把握方法/目標値/達成時期

今回の事業実施を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
実行団体が、コロナ禍における現在および将来にわたる支援対象者の緊急的課題・長期的な課題を的確に把握し、その課題に対する解決法および連携パートナーが明確になっている	・課題点の可視化ができている ・解決法の提示ができている ・連携パートナーのリストがある	・議論の場に参加することによる把握 ・担当者ヒアリングによる把握	モデル創出 5（5団体の場合）	2021年12月以降
上記、課題と解決策が事業担当者だけでなく、組織や連携パートナー含めて全体で共有化されている	・共有のための資料と機会がある	・共有化のための場への参加による把握	・多様なステークホルダーが事業構築作業に参画し、そのプロセスで創造的な議論が起これ、またプロセスを共有することでモデル構築に向けた意識共有ができている	2021年12月～2022年1月末
実行団体において、分散型/高付加価値型のあらたな働く場や地域とのつながりの場のモデルが完成し、次年度以降の事業計画、収支計画、運営体制、資金調達の見込ができている	・モデル事業が終了し、次年度の事業計画、収支計画ができている ・運営体制および資金調達の構想が完成している	・法人代表・経営層とのミーティングおよびヒアリングによる把握 ・事業計画・収支計画 ・運営体制図	・3団体は事業計画・収支計画が完成、次年度から独自財源で実施できる ・2団体は事業計画・収支計画は完成だが、財源確保については融資や他助成金などの調達を経たうえで実施できる	2022年2月末

*実行団体の事業計画等から見直した結果

III. 見直し後*(*)の事業実施後（1年後）以降に目標とする状態 及び 目安とする指標（※指標については設定可能であれば、で構いません）

事業実施後（1年後）以降に目標とする状態	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	実施時期
(課題の再設定等を通じ、見直しをした、1年後以降に目標とする状況、実現したい状況について記載ください。変更が			

*実行団体の事業計画等から見直した結果